

花壇の花を調べてみよう (前篇)

〔 花壇の花 2017年夏季 〕

花壇には今年も色とりどりの花が咲いています。でも、「きれいだね」とながめるだけでなく、もう少し突っ込んで調べてみませんか？

私たちの団地の花壇は、中央広場の円形の花壇、管理事務所前の広場の植枿5か所、2号棟北側の管路収集跡地にあります。それぞれ植えられている種類が異なるため、個別に見ていきます。

【 花壇 】 中央広場の円形の花壇



(7/29 撮影)

○ コニファー

コニファーとは、針のような葉っぱをした針葉樹全体の呼び名です。ですから樹形と葉の色は様々です。主に、欧米で改良された園芸品種の針葉樹を指します。

クリスマスツリーにも利用されています。この花壇では、花壇のシンボルとして植えられています。

花壇の中央のコニファー (7/29) →



○ ブルーサルビア シソ科 花期は5~10月。

アメリカの南西部、テキサス州からニューメキシコ州、それにメキシコに分布しています。わが国には昭和の初めに渡来しました。

高さは60センチほどになります。5月から10月ころ、茎頂や葉脈からシソに似た青色から紫色の涼しげな花を咲かせます。

サルビアはシソ科で、セージの仲間です。葉に香りはあるでしょうか？

他の花を折らないよう注意して、ちょっと失礼して、花壇に一步踏み込んで、ブルーサルビアの葉をつまんでみてください。



(7/21,29 撮影)

(左)夏に涼しげに咲くブルーサルビアと花のアップ写真

○ **ペチュニア** ナス科、アルゼンチン原産の花。花期は5～11月。

別名のツクバネアサガオ（衝羽根朝顔）とは、「羽根つきの羽根のようなアサガオ」という意味です。

このペチュニアは花の色が豊富で、花期が長く、丈夫で誰にでも簡単に育てられることから、世界中の人々に愛されている花です。水やりをしていけばよく咲きます。本来は多年草ですが、寒さには非常に弱いので、一年草扱いで育てます。 (下) 花壇のペチュニア (7/21,29 撮影)



【 花壇の側 】

○ **シモツケ** バラ科、日本原産の花、花期は5月～7月

花壇の側に、淡い紅色の小さな花をたくさん咲かせている低木があります。これはシモツケです。

下野国（しもつけのくに、現在の栃木県）ではじめて見つけられたところからこの名がついたともいわれます。

シモツケ (7/21) →



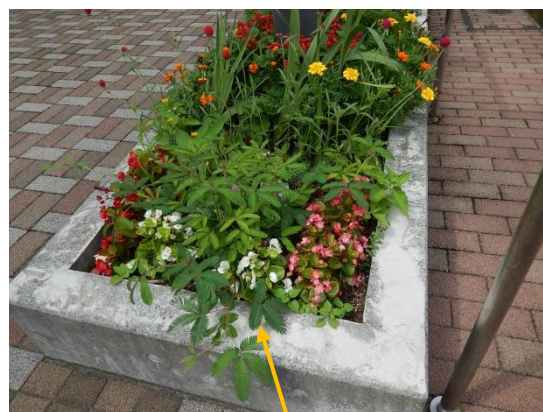
【 植枿 】 管理事務所前

管理事務所前に広場を区切るようにコンクリートの枠に囲まれた花壇が3個並んでいます。これは植枿（しょくます、または、うえます）と呼ばれています。（下写真 7/22,29 撮影）



○ オジギソウ マメ科、花期は7月から10月

南アメリカ原産の花で、日本には江戸時代後期にオランダ船により持ち込まれました。そろそろ花をつけてもよさそうですが、現在は葉のみです。（7月下旬～8月上旬）



(左)オジギソウ (7/29)

(上)ここに植えられています

- ・ この葉に優しく触れてみてください。先端から一対ずつ順番に閉じて、最後に葉全体がやや下向きに垂れさがるのが見られます。
- ・ 晴れの日の昼間と夜間、そして曇りや雨の日、葉はどうなるでしょうか？確認しましょう。



(左)葉の先端に触れたら、一瞬のうちに一部が閉じた

(右)雨の夜は垂れ下がるように閉じていた (8/11夜)

(左) 8月13日
可愛らしい花
が咲いた



(右) 蕾があるので、これからも咲きます



・8月中旬、可愛らしい花を付けました。見に行ってください。 (8月下旬に次々に咲いていた)

○ **サルビア** シソ科、ブラジル原産の花。花期は7月～10月

夏から秋にかけての花壇の花としてもっともポピュラーなもののひとつ。

真っ赤な筒状の萼(がく)から、長い花筒をもつ赤い唇花が出ます。花が散った後も、赤い萼(がく)はしばらく残るので、長く観賞できます。



(左) サルビアの花は萼も筒状の花も真っ赤 (8/11)

(右) こちらはほとんど萼だけになったが、花が咲いているように見える (2号棟北側) (7/21)

そして、唇花につく蜜は美味で、花を摘んで蜜を吸う遊びがあるようですが、蜜にはわずかながら毒が含まれているので、あんまり吸うと気分が悪くなるので要注意との事。

このサルビアはスカーレットセージとも呼ばれています。ブルーサルビアの所でも書きましたが、**サルビアはシソ科で、セージの仲間です。こちらのサルビアの葉には香りはあるでしょうか？**

(ブルーサルビアの葉はシソの香りがしますが、こちらのサルビアの葉は香りがしないようです)

○ センニチコウ (千日紅、別名ゴンフレナ) ヒユ科、春まき1年草

原産地；熱帯アメリカ、 花期；6～10月

夏の日盛りに咲くカサカサした球花はあいきょうがあつて、かわいらしいですね。でもこの美しい丸い形のもの、実は花ではなく苞(ほう)と呼ばれる部分です。

苞(ほう)とは、つぼみを包んでいた葉のことをいいます。丸い形の赤い部分は、たくさんの苞(ほう)が集まって、丸い花のようになっているのです。

本当の花は苞(ほう)の中にあるはず。ルーペで拡大して見てみましょう。



センニチコウの花、(右) 花を拡大して見ると、赤い苞(ほう)の中に小さな花が見られます (8/4)

○ ダリア キク科 花期；5～10月 キク科の多年草。

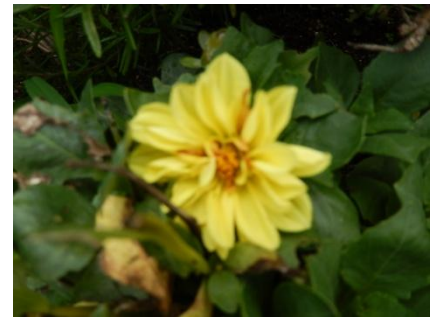
メキシコからグアテマラを原産地とする球根植物で、様々に品種改良され、現在非常に多くの品種があります。大輪種の豪華さ、小輪種の愛らしさ、様々な花色や形などその選択肢の多さが魅力です。

ダリアはメキシコの国花です。19世紀後半、ダリアの種がメキシコからスペインにもたらされました。スウェーデンの植物学者 A.ダール氏はマドリード植物園の園長を務めたことがあり、功績があったので、その人を記念して「ダリア」と名付けられたということです。

日本へは江戸時代末期に、オランダから長崎経由で持ち込まれました。

和名は、花の形がボタンに似ているためテンジクボタン (天竺牡丹) と呼ばれています。

草丈も 20センチから 2メートルにもなる様々な品種がありますが、花壇には草丈の低い矮性種(わいせいしゅ)が植えられています。



様々なダリアの花。(上右) 花は豪華ですが、矮性(草丈が低い)なので、花は目立たない。(7/29, 8/13)

○ **ナデシコ** ナデシコ科、原産地；日本、ヨーロッパ、北アメリカ



(7/21,22
撮影)

秋の七草のひとつとして親しまれている花ですが、その名の由来についてこんな説があるようです。

a) ナデシコは、花が小さく愛らしいことから、「かわいい子供をなでていつくしむ花」ということでその名がついた。

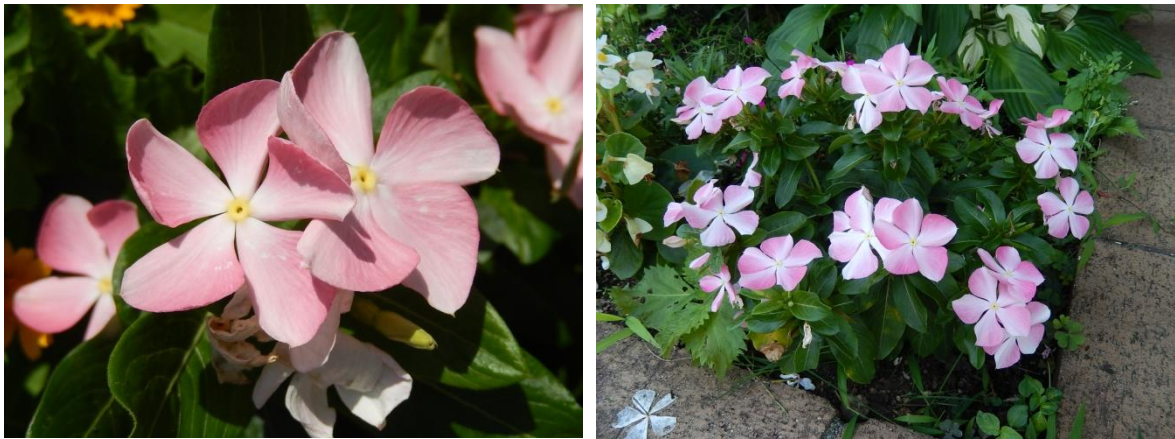
b) 「撫でし子」という言葉の連想から、しばしば子供や女性にたとえられて、古くから和歌などに読み込まれている。

このようなまったく逆方向からの二つの説ですね。花が先か、言葉が先か、皆さんはどう思いますか？

○ **ニチニチソウ**（日々草、別名ビンカ） キョウチクトウ科、花期；7～9月

マダガスカル原産で、熱帯各地に野生化する花。

初夏から晩秋まで次々に花が咲くので、「日々草」と呼ばれ親しまれています。(7/21, 22 撮影)



ところで、この花のもう一つの側面。ニチニチソウには10種類以上のアルカロイド成分が含まれており、一部の成分は抗がん剤としても利用されていますが、副作用・毒性もあり素人の利用には危険であると記されています。

「美しい花にはトゲがある」ということわざもありますが、花壇で日々親しまれている花にもこんな一面があるのですね。

○ **ヒマワリ（向日葵、サンフラワー）** キク科 花期；7～9月

北アメリカ原産の一年草。ヒマワリは英名は「サンフラワー」、和名は「向日葵」、「日輪草」などと呼ばれています。どの名前も太陽に由来します。ヒマワリは太陽の動きに合わせて、花が太陽の方を向くと言われていますが、実際はそのような事はないようです。咲いた花は一方向を向いて咲きます。

(日照をさえぎるものがなければ、花は東を向くようです)

ところで、当団地のヒマワリは、中央広場のベンチの後ろ側（7号棟寄り）に蒔いてありますが、その苗はいずれも虫食いがひどいようです。

管理事務所前の3個所の植柵の一番右側（7号棟寄り）のマリーゴールドの中に一本のヒマワリらしい苗が生えてきました。7月下旬には無かったのですが、現在(8月下旬)かなり伸びてきています。種を蒔いた（種がこぼれた）時期が遅かったのか、まだ蕾らしいのも見えません。時期遅れに小さな花が咲くかもしれません。様子を見ていきましょう。

参考までに、ここに付け加えます。



植枠のマリーゴールドの中に生えてきた、ヒマワリらしい苗

○ **ペコニア・センパフローレンス** シュウカイドウ科、花期；3～11月

豊富な色彩で、春から秋まで長期間花を咲かせ、草丈が低く株姿もきれいにまとまっているなど利点が多く、花壇やコンテナ、寄せ植えなどに広く利用されています。

ペコニアは熱帯～亜熱帯地方の原種を交配し、多くの品種がつけられました。



ペコニア・白 (7/22)



ペコニア・ピンク (8/4)

ペコニアの特徴は

- a) 葉の形が左右非対称で、ややゆがんだ形をしている事。
- b) 花には雄花と雌花があり、雄花は花びらが4枚、雌花は花びらが5枚です。

花を痛めないように、やさしくかき分け、雄花、雌花を確認しましょう。

雄花と雌花は、同じ株にあるでしょうか、別々の株であるでしょうか？

雄花と雌花の違いは分かるでしょうか？

上の写真を見てください。大きな花びら(花弁)が上下に2枚と、横方向に細い花びら2枚が十文字についています。これがペコニアの雄花です。

白い方の花は2個とも雄花、ピンクの方は3個とも雄花のようです。では雌花は？



←雄花・雌花、↑雌花 (8/4)

実は、雄花と雌花は同じ株にあります。左の写真を見てください。右のやや大きめの花、2個が雄花(花びらの特徴に注意)、左の方に雄花に隠れるように咲いている、小さめの花2個が雌花です。雌花は、花びらが5枚が基本ですが、7枚くらいある花もありました(上右)。



花の付け根の部分の比較。(左)雄花、(右)雌花 (共に8/4)

花を裏返して、付け根の部分を見ましょう。

(左) 細い花柄がすうーと伸び、その先に花が付いているだけのものが雄花です。

(右) 付け根が膨らんでいるのが子房(ここに種ができる)、子房が丸い花びらのような萼に包まれているのが雌花です。斜め横からの写真で分かりにくいですが、花びらは5枚のようです。



その後、何度か花壇の様子を見に行き、変化が無いように見えました。

8月23日、念のためその後の様子を確認すると、左の写真のようでした。花が見えるのは雄花ばかり。

下の方に丸い団扇のように見えているのは子房のようです。雌花は受粉が済めば、早々に散ってしまい、残された種子が実っていくのでしょうか。

一番初めの白いベコニアの写真の下方にも、白い団扇が見えますね。これも雌花が散った後の子房のようです。つまり、雄花・雌花は一斉に咲いて、散っていくのではなく、開花して受粉したら、受粉した雌花は次々に散ってしまうようです。7月下旬～8月初め頃、ピンクや赤のベコニアは、雌花は萎れていたり、見られなかったりで、それでカメラを向ける気がしませんでした。

花期は11月頃までですが、これからどのように推移していくのでしょうか？残された雄花が男やめのように、雄花だけで咲き続けるのでしょうか？それとも、少し涼しくなったら、新たな雄花雌花が咲いて世代交代していくのでしょうか？

一見、何事もなく咲き続けているように見えるベコニアには、こんなドラマが隠されていたのですね。興味深く観察していきましょう。

○ ポーチュラカ (別名ハナスベリヒユ) スベリヒユ科、花期；6～10月

マツバボタンの仲間、カラフルで可愛らしい花が地面を覆うように咲き広がります。

シャモジ形の多肉質の葉と茎をもち、暑さや乾燥に非常に強い植物です。しかし、耐寒性はありません。

出自はあまりはっきりせず、雑草のスベリヒユとマツバボタンとの掛け合わせとも伝えられています。

日本には、1990年の大阪花博をきっかけに一気に広まりました。(写真は7/22, 29, 8/11 撮影)



ポーチュラカは太陽が出ていると花を開き、夜間や雨の日は花を閉じます。花は毎日、開いたり閉じたりをくりかえしますので、毎日新しい花が咲いているように思ってしまう(ガーデニング花図鑑)。その他のHPには「一日花」として紹介されています。記述に矛盾があります。いずれが本当でしょうか？

・晴れの日、日中と夜間の状態を観察しましょう。

- ・ 晴れの日とくもりや雨の日の違いを観察しましょう。
- ・ ちょっと失礼して、簡単なマーキング(すぐに外れるように、糸など巻いてみる)して、同じ花が毎日咲くのかどうか観察してみましよう。



雨の夜はこんな風に閉じていた(8/11 夜)



くもりの日も花は閉じたままだった(8/13)

○ **マリーゴールド** 別名クジャクソウ(孔雀草)、 マンジュギク(万寿菊)

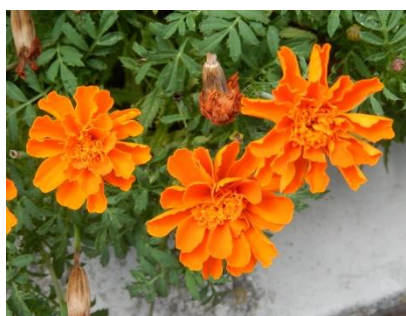
キク科、春まき1年草 原産地；メキシコ、 花期；6～10月

花の色は黄色、オレンジ、赤など暖色系が多い。また、一重、八重、カーネーション咲き、クラウン咲きなど、さまざまな花姿(咲き方)があります。花色と花姿の組み合わせで、多彩な品種があります。

ところでマリーゴールドとは「聖母マリアの黄金」の意味で、花の美しさ、立派さを形容したものでしょう。➡[コーヒーブレイク](#)を参照してください。

日本には江戸時代前半に入ってきました。

(下) 7/22、7/29 撮影



○ メランポジウム キク科、春まき1年草

原産地；メキシコから中央アメリカ、 花期；4～11月

メランポジウムは、こんもりと茂った株に、明るい黄色の小さな花を休みなく咲かせます。高温多湿に強く、肥料分の少ない土地でもよく育ちます。

乾きすぎない日向を好みます。花が咲き終わった上を覆い隠すように新芽が伸びて新しい花が咲くので、花がら摘みをしなくても、いつもきれいな花を楽しめます。

日本に入ってきたのは1990年で、花壇を飾るようになって比較的新しい品種です。(左 7/22 撮影)



① メランポジウムという名前は、

a) ギリシャ語の「メラン(黒い)」と「ポディウム(足)」が語源で「茎が黒い」ことから名付けられた。

b) 「黒くて太い直根がある」ことから名付けられた。

という説があります。

メランポジウムの茎が黒いかどうか、花をかき分けて確認してみましょう。



※ 茎の色は、黒いというより赤黒い感じです。
この可愛らしい花の名前が「黒い茎」というだけでは、かわいそうな感じがしますね。

② 新たなる疑問

メランポジウムがギリシャ語で「黒い茎」とは！ 不承不承ながら、この件は一件落着かと思いましたが、ふと、考えると、どこかおかしいことに気付きました。

中米原産の植物になぜギリシャ語の名前なのか？ヨーロッパの地中海沿岸原産なら分かりますが、なぜここにギリシャ語が出てくるのか？

その理由は分かりません。もうひとつ別のエピソードが隠されているのかもしれませんが。

もし、あなたが、この件に興味を抱き、パソコンが得意でしたら、ネットサーフィンの冒険に出て、この謎を解き明かしてみてください。

③ メランポジウムとミニひまわり

メランポジウムはミニサイズのヒマワリのようにです。それで、しばしばミニひまわりと混同されることがあるようです。

ミニひまわりはヒマワリの矮性種、草丈を1メートル未満になるように押さえられた品種です。双方にどのような違いがあるか？写真と数値で比較してみました。

ミニヒマワリ (HP より) ➡



メランポジウムとミニひまわりの比較

	メランポジウム	ミニひまわり
花弁(花びら)の付き方	一重	重なり合っている
中心の種の部分	黄色で、少し盛り上がる	焦げ茶色に、平たく大きい
葉	細身	幅広、丸い感じ
草丈	20～50 センチ程度	25～30 センチ程度(小夏)
花の大きさ	2～3 センチ程度	10 センチ程度

HP からの写真と前ページに示した写真を比較してください。草丈や花の大きさは写真では分かりません。また、ミニひまわりも色々な品種もあるようなので、それによって花や葉の様子や数値は変わります。それを念頭に、大まかな傾向をつかんでください。

○ ローズマリー (別名；マンネンロウ) シソ科、常緑低木 花期；11～5月中旬

ローズマリーは、学名の"*Rosmarinus*"から「海のしずく」という意味です。

地中海沿岸地域に自生している、青いしずくのような可愛らしい小さな花をつけるシソ科の植物です。

日本に渡来したのは江戸末期で、枝や茎が、いつもろうがかかっているかのようにベタベタしているので、「マンネンロウ」の和名がつけました。



(左) 花壇のローズマリー (7/22)



(右) ローズマリーの花

2号棟南西方のゴミ集積場横 (7/29)

ヨーロッパでは、昔からローズマリーを“聖なる植物”として宗教儀式には必ず必要としていました。結婚式ではローズマリーの枝で新郎新婦を祝福し、葬儀では棺の上にローズマリーが使われました。そしてイエス・キリストの生誕を祝うクリスマスには、ローズマリーでリースなどを作り祝福したということです。

ローズマリーはこのようにヨーロッパの文化と深い関わりがある植物です。

ローズマリーの葉にはどんな香りがあるか確かめましょう。

葉に触れると指がべたつくような感じになります。

(2号棟南西のゴミ置き場の側にも、生垣として植えられています)

【コーヒー・ブレイク】

2種類の花が聖母マリアと関わりがあると記しましたが、どんな言い伝えなのでしょう？少し、調べてみましょう。

① マリーゴールドと聖母マリア

ローマ・カトリック教会が設けた「聖母マリアの祝日」は、年に10日ほどありますが、その際にいつも黄色いマリーゴールドが咲いていたことに由来し、花の名前として採用されたとのこと。

HP ; 「なるほど情報マガジン

<http://xn--p9jb5c5cxiuc4n4f9927ao6r.com/2016/0612/marigold/>

② ローズマリーと聖母マリアの伝説

その昔、聖母マリアは幼いイエスを連れてエジプトにのがれました。その際、緑の葉と白い花で生い茂るローズマリーの中に身を隠し、その上にマントを広げたとたん、白い花が青に変わりました。そのおかげで身を隠すことができ、追っ手から逃れることができました。

このようなエピソードから、マリー（マリア様）とローズ（バラ）を合わせて「ローズマリー（マリア様のバラ）」と呼ばれるようになりました。

HP「おうち菜園」から <http://ouchisaien.com/holy-story-of-rosemary/>

➡ 「後編」につづく